

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑩ 公開実用新案公報 (U)

昭59—193107

⑤ Int. Cl.³
B 65 D 1-02

識別記号

庁内整理番号
6862—3E

④ 公開 昭和59年(1984)12月21日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑧ 包装用容器

⑦ 考 案 者 秋山善男

栃本市吹上町1550株式会社吉野
工業所栃木工場内

⑥ 実 願 昭58—88728

② 出 願 昭58(1983)6月9日

③ 出 願 人 株式会社吉野工業所

① 考 案 者 青木実

東京都江東区大島3丁目2番6
号栃本市吹上町1550株式会社吉野
工業所栃木工場内

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1. 考案の名称 包装用容器

2. 実用新案登録請求の範囲

胴部 1 1 の上端に反転没入可能に膨出する肩部 1 2 を連設し、該肩部の中央に口頸部 1 3 を設けて、該口頸部にキャップ 2 を着脱自在に装着し、胴部 1 1 の下端部分に適宜折目線 1 6 …を設けて、該折目線を以て折畳み接合することにより底部 1 5 を形成するよう構成したことを特徴とする包装用容器。

3. 考案の詳細な説明

本案は、液体等を収容して販売する包装用容器に係る。

この種の容器では、充填が容易であること、内部にそして梱包に無駄な空間が生じないこと、内容物に比べ十分安価であること、注出が容易に行えること等が要求される。

本案は、斯る要求を満足させようとするものである。

以下、図示の実施例について説明する。

図において、1は、容器本体、2は、該容器本体の口頸部に螺合したキャップであり、これらは適宜合成樹脂から成る。

容器本体1は、一種の肉薄びんを構成していて、横断面正方形で且つ縦断面縦長の台形で肉薄の胴部11を設け、該胴部の上端に横断面正方形でこれが上方へ次第に小さくなり且つ縦断面台形の肉薄の肩部12を連設し、該肩部の中央に肉厚の口頸部13を起立すると共に、該口頸部の外周に螺条14を周設しており、肩部12において稜線で逆折りさせることにより肩部12並びに口頸部13を下方へ没入させ得るようにしている。

また、胴部11の下端部分に、第2図に鎖線で示すように、水平、垂直、傾斜の適宜折目線16を設けて、該折目線を以て適宜に折曲の上落積することにより底部15を形成するようにしている。

キャップ2は、周壁21の内周に螺条22を周設し、頂壁23の内面にパッキング24を設けている。

如上の構成であり、液体等の収容物を充填する際は、底部 15 を未完成状態におき、第 3 図に示すように、口頸部 13 へキャップ 2 を螺着すると共に、肩部 12 共々没入させて倒立し、大きく開口する底部の側から収容物を充填し、その後、底部 15 を胴部 11 における折畳み溶着により形成する。

而して、商品流通過程では、口頸部 13 は没入させたままとしておき、消費者において、その収容物を注出する際に引き出す。

本案によれば、底部を開放状態において倒立させることにより、大きく開口した底の側から収容物を充填でき、加えて、口頸部 13 を肩部 12 共々没入させることができ、これを以て倒立状態で簡単に起立させることができ、従つて、充填を極めて容易に行うことができる。

また、口頸部 13 を肩部 12 共々に没入させることにより、内部にそして梱包に無駄な空間を生ぜず、運送、保管、陳列等に好都合であり、流通経費を低減できる。

更に、合成樹脂製とすることによりブロー成形等で安価に提供でき、しかも、注出の際には、口頸部 13 を引き出すことにより極めて容易に具合よく注出でき、実用上頗る有益である。

4. 図面の簡単な説明

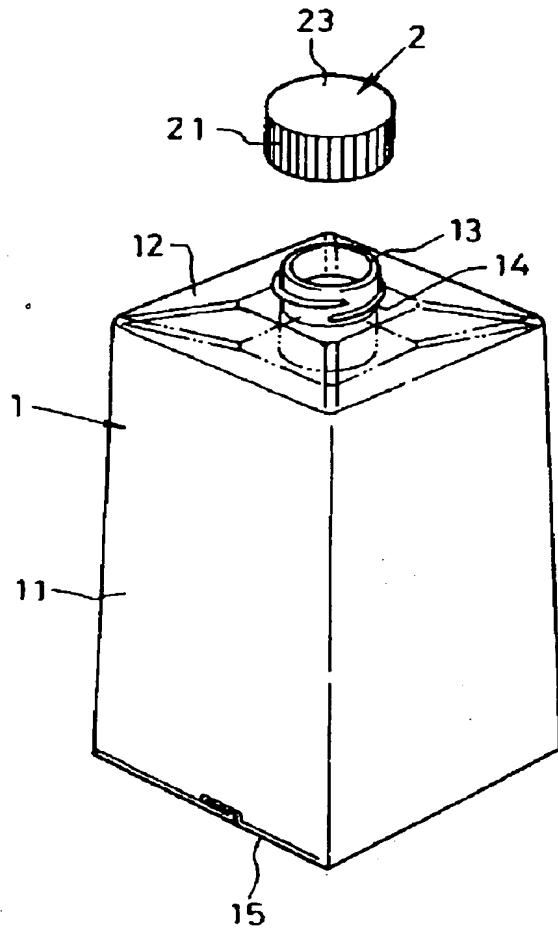
図面は、本案実施例で、第 1 図は、収容物充填後の斜視図、第 2 図は、収容物充填前の斜視図、第 3 図は、収容物充填時の断面図である。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 .. 容器本体 | 2 .. キャップ |
| 11 .. 胴部 | 12 .. 肩部 |
| 13 .. 口頸部 | 15 .. 底部 |

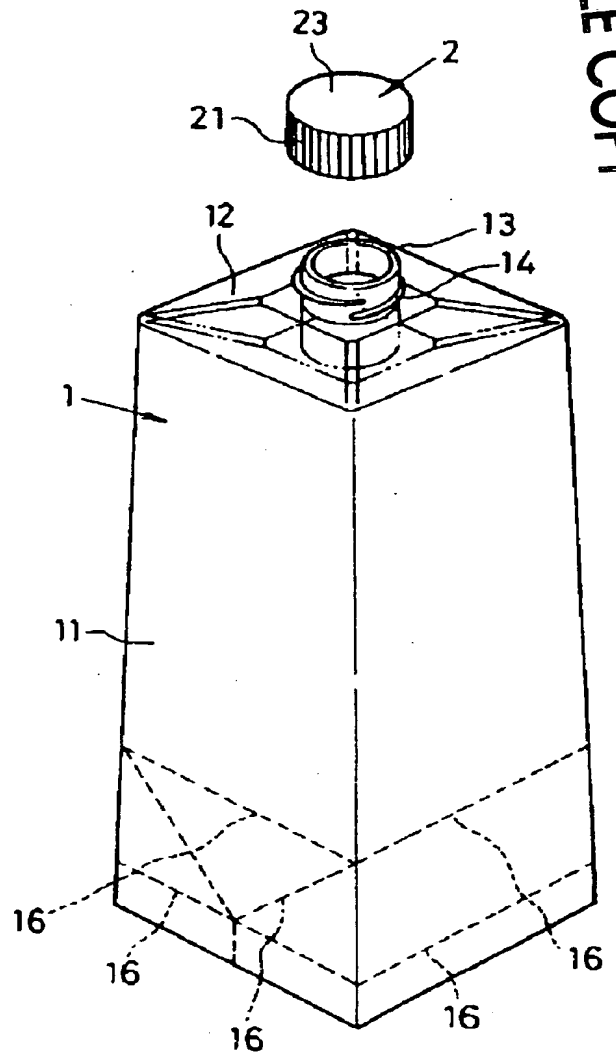
実用新案登録出願人 株式会社 吉野工業所

代 表 者 吉 野 弥 太 郎

第 1 図



第 2 図



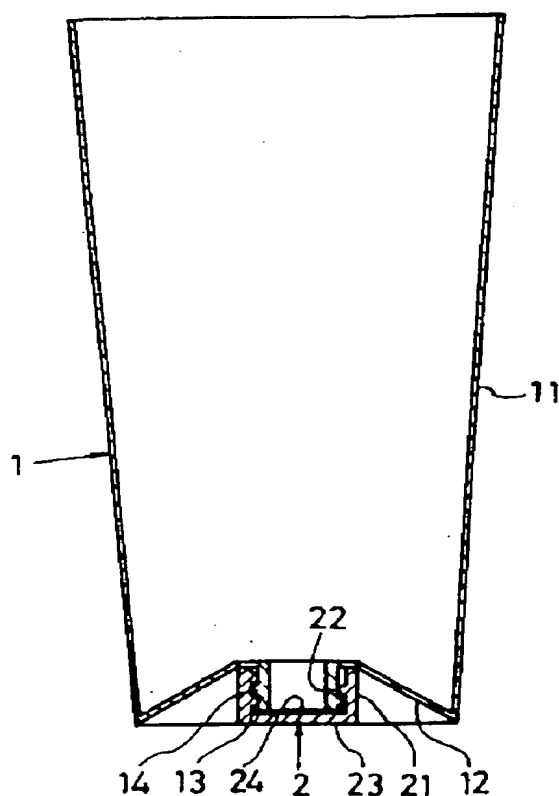
105

出願人 株式会社 吉野工業所
代表者 吉 野 弥 太 郎

実開 59 - 193107

BEST AVAILABLE COPY

第 3 図



106

出願人 株式会社 吉野工業所

代表者 吉 野 弥 太 郎

実開 59-193107